

研究現場から。学会レポート

多能性幹細胞分野 博士後期課程 3年
山添太士 Taiji Yamazoe

6月15日から18日にカナダのトロントで開催された「国際幹細胞学会 (ISSCR)」に、グローバルCOEメンバーで衆研究室の坂野大介 (RA) と山添太士 (Jr. RA) が参加し、研究発表を行いました。海外で行われる国際学会に初めて参加した山添が、そのときの興奮とともに報告します。

今年で第9回目を迎えたISSCRは、世界中で幹細胞研究を行っている研究者が一堂に集まる学会です。議論の中心はES細胞やiPS細胞などの多能性幹細胞のほかに、組織幹細胞やがん幹細胞の局在やその特徴、移植治療への応用など、多岐にわたります。

衆研究室 (多能性幹細胞分野) では、ES細胞やiPS細胞を内胚葉系の分化細胞 (特に膵内分泌細胞、肝細胞、腸管細胞) へと効率よく分化誘導することを主たる研究内容としています。今回のISSCRでは分化誘導に関してポスターセッションを行いました。膵β細胞分化に関するポスターだけで34演題、肝細胞で50演題と、国内の学会だけでは見ることのできない光景です。ポスター会場は、ビール片手にディスカッションという形式でした。チーズをつまみにワインというセレブな御仁もおられました。この学会、特筆すべきは企業の多さです。よくある企業商品展示だけではなく、研究発表 (口演からポスターまで) をはじめ、ランチョンセミナー、セッションのプロモーションと、会場内にサブリミナルのように企業の名前があるという印象です。この学会のWebページをご覧になられると分かりますが、スポンサーのランキング (プラチナ・金・銀・銅サポーター) なんでものもあるようです。これは偏に幹細胞研究の経済的な、あるいは商業的なインパクトの強さを物語っているものだと思います。欧米の市場原理を垣間見ることのできる良い機会となり、こういった背景が研究費 (公費私費含めて) の分配をも決めるのだろうと感じました。ある企業は、ナイトクラブ (トロントでは有名な社交場) を貸し切った夜のディスカッションを行っていました。(勉強熱心な私も参加させていただきました)

トロントは治安も良いようで、夜でも活気があります。留学生をはじめ外国人移住者がとても多く、お店の人も私の英語が適当でも邪険にすることはありませんでした。海外留学希望の方、トロントもいいかもかもしれません。観光地としてはCNタワー、大リーグやホッケー観戦、ナイアガラ滝でしょうか。

この学会にはグローバルCOEの旅費支援により参加する事ができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また一部はISSCR travel grantに応募し、1250ドルのプリペイドカードをいただきましたが、最近の円高で83円/ドルが執筆時77円/ドルになり、5000円以上も安くなってしまいました、トホホ。



ISSCR エントランス前で



トロント大学前のメインストリート。画面右の鏡張りの建物は電力会社で太陽パネルとのこと。トロントの街の電力は夜になると無料になるそう。ナイアガラ滝による水力発電の賜物です



ナイアガラ (カナダ) 滝の上にある大きなカナダ国旗。対岸はニューヨーク州 (アメリカ) です



衆研究室OBの樋口博士と共に。この後、フーターストロントで今後の研究などについて語り合いました。研究室の外で研究が進む!?

COVER&ISSUE

表紙植物: カラー Zantedeschia Hybrids / 花言葉: 情熱・すてきな美しさ
表紙機器: メスシリンダー発行: 熊本大学 グローバル COE プログラム 細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット
〒860-0811 熊本市本庄 2-2-1 Tel.096-373-5006 Fax.096-373-5031
<http://www.g-coe.org/>

編集制作: 株式会社カラーズプランニング